

# 公益の風 #55

東北公益文科大学大学院 公益学研究科 修了生  
山形県職員

黒坂 貴子



「修了生の学び・研究・実践交流会」

2025年11月15日

の「修了生の学び・研究・実践交流会」に参加し、懐かしい同期生やお世話になった先生、職員の方々と久しぶりに会えた。交流会では、「公益とはなにか」を改めて考え、週末だけではあるが、2年間山形市から鶴岡キャンパスに通った自分の大学院生活を振り返る機会をいただいた。2年間を通じて、同期生とはよく話した。そして私が今後の東北公益文科大学大学院に望むことも、フラットな対話の場を提供し続けて欲しいということである。

## 学びの振り返りと今後への期待

「アジアビジネス人材養成講座での学び」

私が2015年から2017年に1期生として学び、修了した「アジアビジネス人材養成講座」(2015～2020年度)は、ASEANを中心としたアジア諸国とのビジネスの拡大を担う人材を養成する目的で修士課程に設立された山形県の寄附講座で、実学に特化していた。修士論文に代えて、マーケティングや人材の活用、資金計画等を盛り込んだビジネスプランを検討・作成するのだ。

英語集中プログラムが用意され、同時に講義のうちの半分程度は英語で展開された。与えられたテーマについて英語でプレゼンテーションし、他学生と質疑応答する場が多く設けられた。「マッシュマロ・チャレンジ」等のチームビルディングのワークショップがあったり、各国の有名企業の経営戦略を比較したり、海外駐在経験者の生の声を聴いたり、授業内容はバラエティに富み、刺激的だった。

1期生の多くは様々な企業から派遣された社会人だったが、留学生もあり、年代もばらばらだったので、各人が独自の視座を持っており、学生間の討論や対話、プレゼン

の機会が多くあったことで、多くの気づきがあった。思い返せば、この2

年間は学生同士で切磋琢磨しい、笑しい、汗をかきながら過ごした楽しい時間だった。私は最終的に、当時の職場の業務でも扱っていた「山形鋳物」をインバウンド観光客に向けて、中部国際空港で販売するというプランを設計して提出し、修了することができた。

社会人の学びの効果として、業務に関連した学びを自ら職場外で実践していることは、仕事に対するモチベーションと精神高揚という形で業務に還元した。ほんの少しだけでも、仕事よりも自分が先に走っている、という感覚は心の余裕にもつながり、効果的だった。

「東北公益文科大学大学院への期待」  
自然災害の多発、クマの出没、人口減少、エネルギー価格高騰等、現在私たちが抱える課題は、い

業務でかかわっている、多文化共生社会の実現も、難題の一つである。難解で複雑だからこそ、多様な価値観を持つ個人個人が集まって、フラットに對話する必要がある。情報があふれている現代では、気を付けていても、検索し収集する情報に、「確認バイアス」がかかっている恐れがある。物事を多角的に見つめる。そのために、色々な立場の人が、色々な面から、意見を出し合う、今だからこそ、そういう場が欲しい。かつての国籍、業種、年齢を超えた対話の空間を、非常に恋しく思い出している。東北公益文科大学大学院には、地域のどのような立場の人にも開かれた、対話の場づくりを期待している。

「東北公益文科大学大学院への期待」  
自然災害の多発、クマの出没、人口減少、エネルギー価格高騰等、現在私たちが抱える課題は、い

Plant quarantine conditions

Fruits	Cherry	La France (pear)	grape	peach	apple
Export partner area					
Taiwan	Q	☆	Q	☆	☆
Hong Kong	Q	Q	Q	Q	Q
Singapore	Q	Q	Q	Q	Q

Q: need plant quarantine certificates  
☆: need to meet special quarantine conditions based on bilateral agreement  
Q: able to export without any certificates

授業のプレゼンのため作成した資料例